



ソウハチ（日本海南西部系群*） ①

ソウハチは韓国沿岸を含む日本全域に生息し、本系群は日本海西部海域（鳥取～山口）に分布する。



図1 分布図

100～200mの泥底を中心に生息する。日本海では西部海域において特に漁獲が多い。主産卵場は対馬周辺海域で、産卵期は1～4月である。

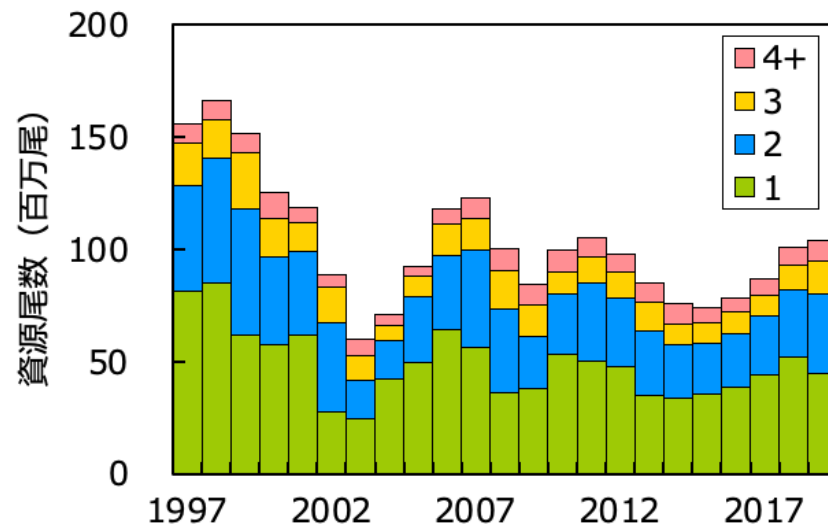


図2 漁獲量の推移

1985年以前は沖底のみ、1986年以降は小底を含む。最大値は1999年の50百トン、最低値は2004年の14百トンである。近年は20～30百トンの範囲で推移しており、2019年は19百トンであった。

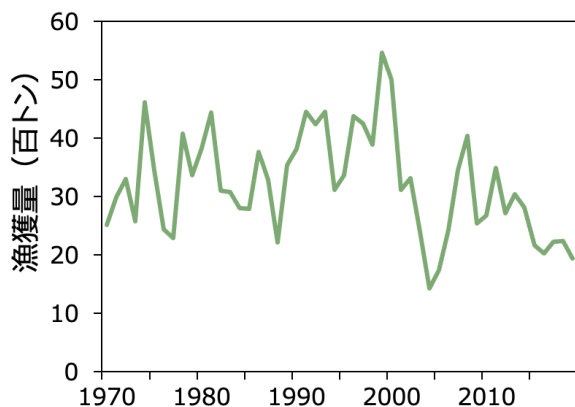


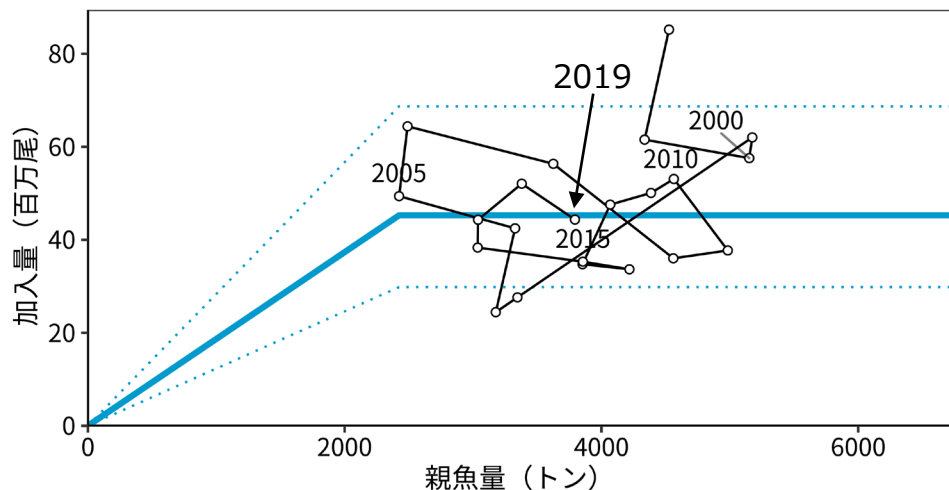
図3 年齢別資源尾数

1998年に最高値の166百万尾となった後、2003年に過去最低の60百万尾まで急減した。2016年以降は増加傾向にあり、2019年は104百万尾であった。

本資料は神戸プロットまでを示した暫定版であり、管理基準値案や漁獲管理規則案などを示した完成版については、令和3年度の資源評価会議後（7月以降）に公表する見込みである。

*本系群は令和2年度資源評価における日本海系群を指す。

ソウハチ（日本海南西部系群*）②



関数形: HS, 自己相関: 1, 最適化法L2, AICc: 15.31

図4 再生産関係

1997～2018年の親魚量とその翌年の加入量に対し、加入量の変動傾向（再生産関係から予測されるよりも良い加入（悪い加入）が一定期間続く効果）を考慮したホッパー・スティック型再生産曲線を適用した（青実線）。青い点線は、仮定した再生産関係のもとでデータの90%が含まれる範囲である。

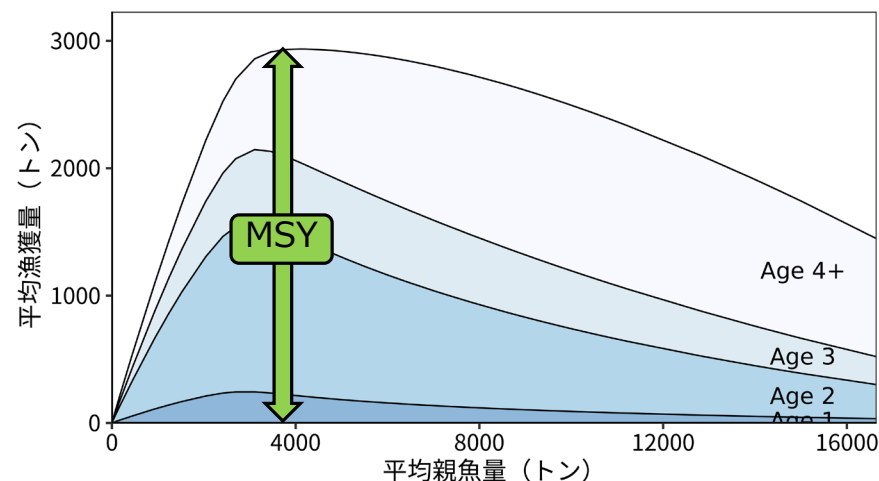


図5 年齢別漁獲量曲線

最大持続生産量（MSY）を実現する親魚量（SBmsy）は41百トンと算定される。目標管理基準値としてSBmsyを提案する。

MSYを実現する親魚量	2019年の親魚量	MSY
41百トン	44百トン	29百トン

本資料は神戸プロットまでを示した暫定版であり、管理基準値案や漁獲管理規則案などを示した完成版については、令和3年度の資源評価会議後（7月以降）に公表する見込みである。

*本系群は令和2年度資源評価における日本海系群を指す。

ソウハチ（日本海南西部系群*） ③

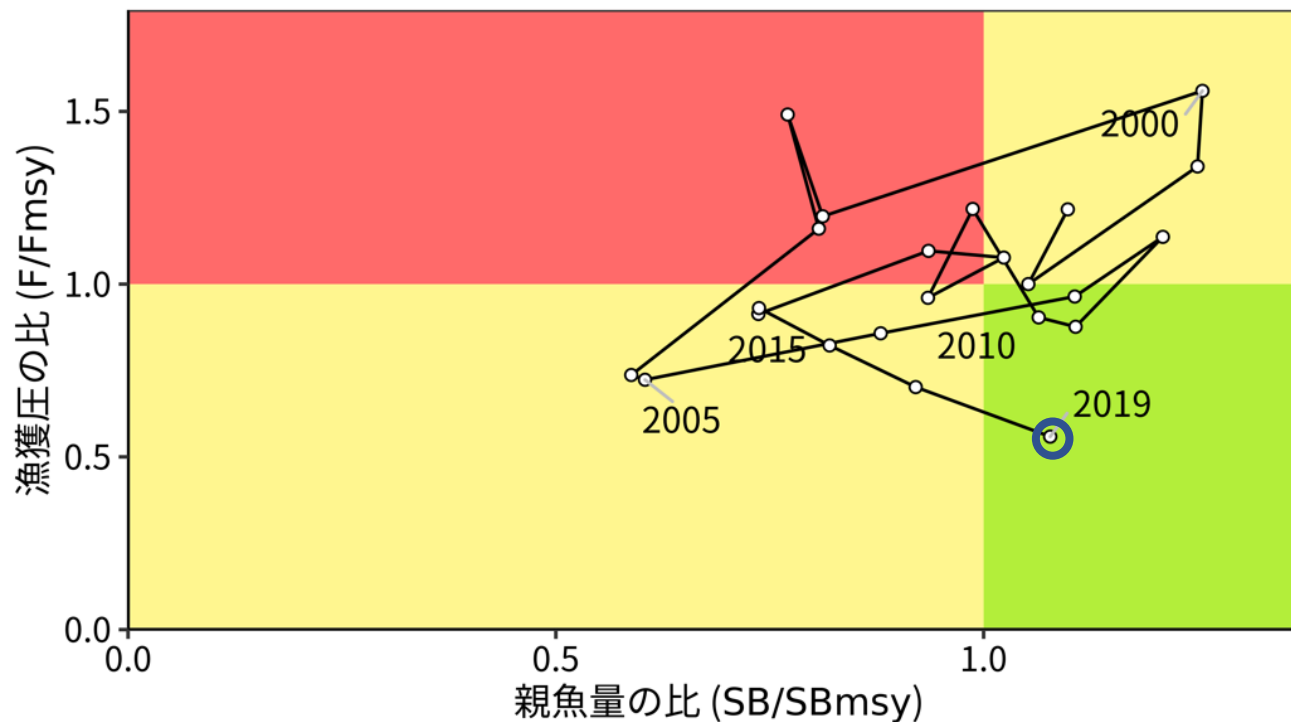


図6 神戸プロット(神戸チャート)

漁獲圧 (F) は2015年以降、最大持続生産量 (MSY) を実現する漁獲圧 (F_{msy}) を下回っている。親魚量は最大持続生産量を実現する親魚量 (SB_{msy}) を2014年から2018年まで下回っていたが、2019年は上回った。

本資料は神戸プロットまでを示した暫定版であり、管理基準値案や漁獲管理規則案などを示した完成版については、令和3年度の資源評価会議後（7月以降）に公表する見込みである。

*本系群は令和2年度資源評価における日本海系群を指す。